

運営の難しさからしてサテライト方式はほとんど不可能なものです。それにもかかわらず「時間が無い」という理由で3番の案で決まっています。

## 再修正とセンター長の人選

県の強い関わりがあつて、最終的には「センター病院400床、成東病院150床、大網病院100床のサテライト方式で進む」ことが19年2月13日に山武郡内の市町長間での最終的な合意となりました。センター長は、千葉県知事を通して千葉大学にお願ひすることとなりました。地域の公立病院は、ほとんどの医師を千葉大学から派遣していただいた関係からも、適切な方針だと思いません。

## センター長の権限と計画断念

新聞では、「山武市がセンター長の権限縮小を主張したことから計画が断念された」と報じられました。千葉県からの質問は2点でした。

1 センター長は、中央病院だけでなく、支援病院を含む医療センター全体を統括できる立場として理解してよいか。

2 センター長は、医療センター全体の運営に関して、人事・予算等の実質的権限を持ち、リーダーシップを発揮できる立場として理解してよいか。

この質問に対しては、山武市として異存はありませんでしたが、成東病院を支援病院として150床で残すことは基本的な合意である旨を付け加えました。このことがセンター長の要請に障害となり、今回の計画断念の原因とされました。背景としては、医師不足が深刻で、支援病院まで運営は約束できないのが千葉大学の現状なのだと思います。このことは、計画自体が最初から無理であったことにほかなりません。

総務省の公立病院改革指針ができたこと、医師不足が更に進んだこと、国・県そして市や町の財政にまったく余裕がないことを勘案するならば、今回の計画はもともと実現性に疑問を抱かせるものでした。「建設予定地は変更せずにセンター病院を建てて

しまつて、後から成東病院を無床の診療所に格下げする」ことは、山武市民との約束の上からも認められませんでした。

山武市としては、新たな病院建設に投資をする余裕はありません。「現存する成東病院を支えるだけで精一杯」が本当の姿です。今の医療を何とかするため、成東病院で頑張ってください先生方にご努力をお願いして、できるだけ早く皆様にお心していただける病院に回復したいと思えます。

山武市長 椎名 千収

